



平成26年度成人式  
ふるさとで二十歳の誓い

奥出雲町成人式が八月十五日、カルチャープラザ仁多で開催され、新成人が新たな一歩を踏み出しました。

今年成人式を迎えたのは、平成六年四月二日から平成七年四月一日生まれの町内出身者と在住者百八十人。式典にはそのうち百十五人が出席しました。

会場は真新しいスーツや鮮やかなドレス姿の新成人で華やき、同級生との久しぶりの再会に喜び合っていた。写真撮影をする姿などで賑わっていました。

多くの来賓が臨席し厳かに行われた式典では、勝田副町長が「成人式を契機に、常に問題意識をもって研鑽努力し、社会に大きく貢献する人材として成長してほしい」と式辞を述べました。



▲誓いの言葉を述べる山田さん

これを受け、新成人を代表して山田千夏さん（横田）が「奥出雲町を離れて改めて町の魅力に気づき、自慢のふるさとだとわかった。ふるさとと奥出雲町を自慢に思う人がさらに多くなるよう、町づくりの一員として地域を元気にしていきたい」と誓いの言葉を述べ、新成人としての決意を新たにしました。

また、馬木地区出身で現在ソプラノ歌手として音楽活動を行っている田中恵さんが、新成人の門出を祝って歌唱を披露。夢を叶えた先輩の美しく迫力ある歌声に、新成人は胸を打たれた様子でした。

成人式の様子は、ケーブルテレビで全町に生中継され、多くの人々が新成人を祝いました。



▲田中さんによる歌唱披露の様子



▲準優勝に輝いた仁多中学校女子ホッケー部

八月十五日から十八日まで熊本県で開催された第四十四回全日本中学生ホッケー選手権大会において、仁多中学校女子ホッケー部が初の準優勝に輝きました。

チームは予選から持ち前の攻撃的なホッケーを展開。準決勝の津沢中学校（富山県）との対戦では、両者一歩も譲らず無得点で延長戦に突入し、激しい攻防戦の末、延長後半残り二秒に劇的なゴールを決め、初の決勝戦進出を決めました。

決勝戦は宿敵の朝日中学校（福井県）と対戦し、選手はゴールに向かって果敢に攻撃。相手の堅い守りに阻まれ三対〇で敗れました。

が、チーム初の準優勝の快挙を成し遂げました。

八月十九日には役場仁多庁舎で報告会が行われ、多くの保護者や町民が駆けつけ選手の活躍を称えました。

監督の児島史郎教頭は「個々の能力の高いバランスのとれたチームで、全国制覇を目標に日々レベルの高い練習をしてきた。勝ちたという強い思いが準優勝の結果につながり、選手たちも満足している」と大会を振り返りました。

横田中学校男子・女子ホッケー部はそれぞれベスト8と健闘しました。

### しまね暮らし体験ツアー

八月九日と十日の二日間、「しまね暮らし体験ツアー」が行われ、大阪市、横浜市、広島市から六人が参加しました。

このツアーは、島根県への移住に関心のある県外居住者を対象に、移住へのイメージを具体的に示してもらおうとNPO法人さくらおろちの主催で行われました。

参加者は、空き家バンクに登録のある家の見学、空き家の掃除や傷んだ壁の取り壊しなどを体験。また、Uイーターナーや地元の方たちと情報交換をして交流を深め、移住の想いを強くした様子でした。

このツアーをきっかけに町内への移住や交流人口の増加につながることを期待されます。



▲薬局で作業を体験する高校生

この体験を通して、地域医療を支える人材が一人でも多く育つことを願います。



▲空き家の改修を体験

### 町立奥出雲病院で職場体験

医療関係の職業に興味を持っている横田高校生十七人が八月六日、町立奥出雲病院で医師、薬剤師、看護師、介護福祉士などの職種について、実際の業務を体験しながら学びました。

この職場体験は、将来の医療分野での人材確保や高校生の職業教育支援、地域に開かれた病院づくりを目的に毎年行われています。

病棟では、患者さんへの食事介助を行いコミュニケーションの大切さを学んだり、新生児を実際に

だっこしたり心臓の音を聞いたりなど貴重な体験をしました。

また、薬局では薬剤師から話を聞いた後、実際に薬を容器に入れる作業などを行いました。

参加した生徒から「患者さんが何を考えているか、どうして欲しいか、など考えて行動することがとても重要なことだと分かった」「将来どんな職業に就くかまだ決まっていなくて、職場体験で学んだことを参考にじっくり決めたい」と感想がありました。